

弘前大学附属図書館貴重資料

「御郡内惣図」デジタル版

公開のご案内

おぐんないそうず

「御郡内惣図」は、弘前市の郷土史研究家・故小野慎吉氏（1888-1963）の蔵書で、昭和40年（1965年）1月、同家から弘前大学附属図書館へ寄贈され、小野文庫と命名された資料群に収蔵されています。同文庫は、郷土史関係の図書・古文書類等から構成されており、現在附属図書館の貴重書に指定されています。

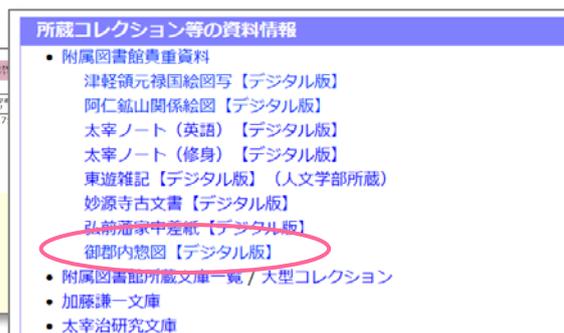
通常は附属図書館3階の貴重資料保管室にて保管しており、利用者向けの公開はしていませんが、この度、本絵図のデジタル化を行い、附属図書館ホームページからどなたでもご覧いただけるように公開いたしました。



【利用方法】

弘前大学附属図書館ホームページ → 所蔵コレクション等の資料情報 → 御郡内惣図【デジタル版】

URL : <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>



【資料の紹介】 ※附属図書館 HP 内に、弘前大学名誉教授・長谷川成一先生による詳しい解説があります。

おぐんないそうず

「御郡内惣図」（縦（南北）159cm×横（東西）164cm）には、鮮やかな色彩で津軽領内が描かれています。領内の各村は「平賀庄」（赤色）、「鼻和庄」（藍色）、「田舎庄」（黄色）の三庄に色分けされており、小判型の形の中に村名が記されています。また、同図に描かれている十三湖は、湖と日本海が旧来の水路ではなく双方が直接結ばれているように見え、さらに南の方に「古潟」が描かれていますが、これは日本海からの旧水路が塞がれて、「古潟」として残存した状況を描いていると思われる。

しかし、描かれた年代を明確に特定できる材料は乏しく、残念ながら現時点で何年頃の絵図であると言明するのは困難です。ただ、村の数や村名、十三湖の描かれ方を、正保2年（1645）の「陸奥国津軽郡之絵図」（青森県立郷土館蔵）、「津軽領元禄領国絵図写」（弘前大学附属図書館蔵）、「津軽国図」（弘前市立博物館蔵）、「陸奥国津軽領大図」（弘前市立弘前図書館蔵）等の現存する絵図や、「津軽編覧日記」（弘前市立弘前図書館蔵）等の各資料の記述と照合することにより、本絵図は18世紀後半の津軽領内を描いたものと推定されます。

【「御郡内惣図」デジタル版に関するお問い合わせ】

弘前大学附属図書館 資料管理グループ（図書情報担当）

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

Tel : 0172-39-3156 Mail : jm3156@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学附属図書館は一般の方も利用できます。ホームページに館情報等を掲載していますので、ぜひご利用ください。HPはこちらのQRコードからどうぞ。→

